

すたんどばいみー 2013 年 活動報告

■小学生教室

〈開催日〉(2012 年度)1/5・12・19・26・2/2・23・3/2・16・23・30

(2013 年度)4/6・13・20・27・5/4・18・25・6/1・8・15・22・29・7/6・13・27・8/10・17・24・31・9/14・21・28・

10/12・19・11/2・9・16・12/7・13・14・21

回数:41 回

〈参加延べ人数〉子ども 361 人 スタッフ 254 人

計 615 人

【2013 年の活動】

小学生教室に毎回、10 人前後の子どもの参加があり、いちよう小学校・渋谷小学校・阿久和小学校の子どもがいます。今年度の大きな変化としては、団地祭りに出店したことによって、地域でのばいみーの認知度が広がったことです。そのことにより、新規で、南米系の子どもやベトナム人やカンボジア人の子どもの参加がありました。

教室に参加している子どもの特徴として、自己中心的な子どもが目立っています。集団で行動する上でそれが故に、孤立してしまいます。また、様々なものに興味を示し落ち着いて座れない子どもがいたり、周りが見えなく状況が把握できずに、集団から外れてしまう子どももいました。高学年は、低学年や横にいる人よりも自分の意見を押し進めてしまう様子があります。低学年は、高学年に比べると集団として行動ができるが、お互いを気にかけて助け合うことができない 3 年生の子どもがいました。勉強面では、4 年生になっても九九が全て言えない子どもや全学年に共通して手を使わなければ計算ができない子どもがいます。新規の子どもの特徴においては、低学年の南米の子どもは、同学年のベトナム人の子どもよりも文の読みが他の子よりもたどたどしいことがありました。

スタッフ間では、子どもに競争意識があり、それがゆえに他者よりも個人をみるようになっていないかということが考えられました。高学年については、自我が強くなってきていることが関係し、自己中心的な行動や主張の声が大きいのではないかと話し合われました。

教室では、子ども達の実態を探ると同時に、学年単位で集団化することを考え、教室運営をしてきました。教室運営では、継続的に子どもの様子を追って見たり、学習体制を作る為に学年ごとに担当を振り分けました。そのことにより、子ども達には、物事の一つ一つを一緒に考えたり、方法を教えたりすることが必要だと分かってきました。

イベントは、こどもの国遠足とクリスマス会で劇を行いました。遠足では、子どもの特徴から、高学年をリーダーとして設定し、低学年を交えたコース決めをする遠足を計画しました。クリスマス会では、集団化からはずれていってしまう子どもに一つひとつの物事や今なにをすべき時間かを教えたりする為に、高学年は「桃太郎」を、低学年は「おおきなかぶ」を企画しました。しかし、当日は、桃太郎の劇発表はしなかったです。当日まで、スタッフが練習日を多く設けられなかったことがありますが、高学年は、スタッフの役決めに反抗したり、桃太郎と鬼の勝ち負けにこだわり、練習をふざける姿や練習を行わない姿がみられました。その様子から、子ども達と話し合って劇を延期しました。

【次年度に向けての課題】

2013 年度は、全体的に落ち着いて座れない子どもと学校に適応できているような子どもがいました。教室では、前者に焦点をあてた教室運営をしてきました。しかし、子どもの特徴をとらえる上で、家庭での様子を把握できたものの、学校の様子を把握しきれていませんでした。2014 年度は、見えてきた子どもの特徴を踏まえ、学校での様子を把握して、継続して参加している子どもの支援をしていきます。教室では、他者

を考えるきっかけを与えるような学習や集団遊びを計画して行き、高学年には、クリスマス会で行えなかった桃太郎を再度練習し、発表会を設けていきたいです。また、今年度の教室に参加している子どもの中には、支援級に通級している子どもが増えているため、次年度ではその子どもたちを含めて継続的に子どもの実態や学校での様子を把握していきたいです。

2013年度は、スタッフ不足が課題として出てきました。各学年でスタッフを配置していますが、1人で約5人の子どもを支援していくことには限界がありました。来年度は、ボランティア募集をすることをしていくことを考えています。

■音楽教室

〈開催日〉(2012年度)1/11・18、2/1・8・15・3/1・15・22・24

(2013年度)4/5・12・19・25・5/1・7・14・21・28・6/4・11・18・25・7/2・9・10・12・13・16・23・30・

10/1・8・22・29・11/5・12

回数:36回

〈参加延べ人数〉生徒 243人 スタッフ 120人

合計:363人

【2013年の活動】

いちょう小、渋谷小、飯田北小、上飯田中から合わせて毎回約10人が参加しています。教室の活動として、順番にピアノを練習しながら学校の勉強などをしています。音符が読めない子どもが多かったので、授業形式で音階の勉強などを始めました。小学生や中学生の参加者がいるため、みんなで一緒に行えることとして、教室の休憩時間には体を動かしたり物を使ったゲームをみんなで決めて行っています。

6年生にはベトナム人の女子が2人おり、その内の日本生まれのWは、女子が家事を担うという母国の観念から、家事のほとんど担わなければいけないことや、学校で人間関係がうまくいっていないことなど、教室の中では勉強するよりも、家や学校のことを話すことが多いです。もう1人の2、3年前に来日したNは、日本の学校や生活に積極的に適応しようとしている姿勢が見られます。こうした違う経験をしている者同士で、お互いの話を聞いたり、考えたりする場としてありましたが、今年度の活動はそのような場づくりが十分ではなかったと考えられます。

小学生教室にも参加している小3のTも音楽教室参加していますが、Tには他人との会話の練習が必要なため、音楽教室では5月に日常の会話を取り入れた劇を行い、親や学校の先生を客として迎えて発表を行いました。発表の当日は、子どもたちはカンペを使わずにセリフを全部言えたり、また、セリフを忘れた子どもに対して、周りの子どもたちが教えてあげたりして、お互い助け合った様子が見られました。しかし、劇の内容を低学年に合わせていたため、高学年や中学生が退屈してしまった部分がありました。

幅広い参加者が活動できる形として、12月には小学生教室のクリスマス会に参加し、みんなでダンスの発表をしました。練習時間が短かった中で、当日は中学生と小学生とともにダンスを発表することができましたが、企画者の呼びかけがうまくいかなかったことから、参加できなかった中学生や高学年がいました。

【次年度に向けての課題】

6年生が今年度で中学校に上がるので、今後は中学生教室への参加を誘っていきます。また、継続的に参加していたTが途中から参加しなくなったことから、Tと教室でできることを考え、教室に誘っていきたいと思います。さらに、参加者の学年が広くわたっているため、違う経験をしている子どもたちが、お互いの経験を話したり考えたりする場として、教室を作っていく必要があると考えられます。

■小5・6教室

【2013年の活動】

今年度の小5・6教室は、Ed.ベンチャーが運営する教室であり、すたんどばいみーに来ている子も参加しています。すたんどばいみー側の担当としては、いちょう小学校の子どもが1人と渋谷小学校の子どもが3人定着して参加していました。今年度は、先生たちが主に教室の内容を考えていき、すたんどばいみーとしては一緒に考える部分もあれば、先生たちの考えた内容を一緒に行い、子どもの様子を見ていくことなどをしました。教室には、小学生教室にも参加しているベトナム人の男子Sが今年から参加しています。Sの様子を見ていく中で、学校の様子を詩にして発表することや自己紹介新聞を作ることが得意だということがわかりました。しかし、他の子どもの発表を落ち着いて聞くことがまだ難しく、自分のことだけを発表したら、もう終わりという様子も見えました。団地探検ではSは先生になったつもりで団地を案内しており、普段の教室では見ることでできないSの積極的な様子が見られました。

鎌倉遠足では、調べ学習の分担をする際に、自分の調べたいものだけを調べるなど自分勝手なところが少し見られましたが、先生たちや他の子どもたちと話し合いを設けることで、自分の調べる内容を再確認して、しっかりと調べることができていました。

教室全体を通して、当初は昨年から教室に参加していた2人がSを仲間外れにする様子も見られましたが、先生たちが子どもたちと話すことによって一緒に活動することができています。

Sの小学生教室と小5・6教室の違いとしては、小5・6教室では小学生教室より少し落ち着いて見えます。理由としては、小学生教室ではスタッフ不足から一対一で話を聞いたりすることがあまりできないこととSよりも学年が下の子どもが多いので、その子どもたちと一緒にふざけてしまうことが考えられます。一方、小5・6教室では先生たちがほぼ一対一で子どもたちと接することができていて、子どもたちとゆっくり時間をかけて物事を進めている様子が見られることとSと同学年の子どもだけしかいないので全体的に落ち着いている雰囲気の中でいることもSが落ち着いている理由だと考えられます。

【次年度の課題】

2013年度は主に先生たちの提案した内容を一緒に行うことが多かったので、2014年度の教室運営は小5・6の先生たちが目標としていることとばいみーが大事にしたいことを互いに把握し合い、その上で子どもたちにできることを小学生教室と小5・6教室の両者の教室で考えていき、外国人の子どもに対して行える支援を行っていきたいです。

■中学生教室

〈開催日〉(2012年度)1/8・15・22・29・2/5・12・19・26

(2013年度)4/2・9・16・23・30・5/9・16・23・30・6/6・13・20・27・7/4・11・18・25・8/1・8・15・22・29・

9/5・12・19・26・10/3・10・17・24・11/7・14・21・28・12/5・12・19・26

回数:51回

〈参加延べ人数〉生徒222人 スタッフ142人

合計364人

【2013年の活動】

今年度の中学生教室は、4月から7月の間に教室内で見た中学生たちの様子から、8月にキャンプを行いました。教室内で女の子同士が異性に対する話でしか繋がることができず、昨年からの問題でもあるインターネットを通じて異性に会おうという危険性が考えられたので、キャンプの係活動などを通して、女の子同士でも他の中学生とも一緒に物事を考える活動が出来るようにしました。このことは昨年からの問題になっていて、異性を求めてしまう理由としては、現実の学校生活に勉強面や人間関係でうまくいかないという理由でついていけなかったり、外国人の家庭では、インターネットやSNSに関して親の監視が行き届いて

いなかったり、子どもが学校で起きた問題を、親に相談しても解決できないと予想されます。そのことから学校や家庭の問題を、現実逃避をして異性を求めてしまうのではないかと考えられます。

キャンプでは自分のルーツや今の生活について考える活動(選択国際)を行いました。今の中学生は、外国人であるがゆえに学校でからかわれたり、名前で遊ばれたりする中で、外国人であることを隠すために、日本名に改名してしまう子どもがいること、家庭で特に女子に母国的なしばりが強く、子どもたちの自由がかなり制限されていることなど、気づいていないけれどまだ言葉にできずにいることがあります。そのことについて高校生・大学生スタッフや社会人のスタッフが経験してきたことを話すことによって、中学生たちの日常の整理をしたり、他の中学生の経験を聞いたりすることができました。それと、同じ外国人の問題を抱えている人が同年代でいるという事や先に経験をしているスタッフもいるということに気づき、相談をすることができる人が周りにたくさんいるという事も知るきっかけになりました。

普段の教室内では、多くの中学生が提出物を出さないことや遅れて出すことに違和感を持っていなかったことがあります。考えられる理由としては、家庭で勉強をする体制が整っていなかったり、提出物を出さないことが直接成績に関係ないと思っていたりするからだと考えられます。このことから、日常の中学生教室では提出物を一緒にやり、学校に提出ができるようにしました。

今年度の教室に参加している子どもは 10 人前後ということから全学年を対象に受験合宿を行いました。今年度の 2 年生の中で学力的に厳しい子どもが 2 人おり、今の段階から 3 年生の受験対策の様子を見てほしいと考え、中1中2にも参加するよう呼びかけました。合宿を行った理由としては、外国人の子どもたちは受験に向けて、家庭からの支援がほとんどないという事と受験に対する情報量が少ないということがあります。合宿には、以前教室に参加していた子どもにも呼びかけ、11 人の子どもの参加がありました。しかし、2 年生のうちの 1 人は、勉強に対する嫌悪感から参加がなかったです。合宿では、Ed.ベンチャーの先生に教材の準備や講師を依頼しました。子ども達は、どの学年も集中して学習をしていて、3 年生の中では、互いに教えあったりする姿もみられました。今後も引き続き、受験対策を行っていきます。

【次年度に向けての課題】

昨年からの問題でもある学校や家庭の現実から逃避して異性を求めてしまうことから、教室内で異性に対する話題以外の内容をスタッフから提示していくことをしていきたいと思います。

提出物を出さないことに関しては、教室に宿題を持って来てもらい、今後も一緒に取り組んでいきたいと考えています。また、教室に参加している中学生同士が普段の学校の中で宿題の確認や小テストの範囲などの確認をお互いにできるようにしていきたいとも考えています。

日常の教室では学習補充だけではなく、キャンプで行った自分のルーツや今の生活について考える活動(選択国際)を日常の教室でも取り扱っていききたいと思います。

■高校生教室

〈開催日程〉(2012 年度)1/9・16・30・2/6・13・20・27・3/6・13・20・27

(2013 年度)4/3・10・17・24・5/1・8・15・22・29・6/5・12・19・26・7/3・10・17・31・8/7・14・21・28・

9/4・11・18・25・10/2・9・16・23・30・11/6・13・20・27・12/4・11・18・25 回数:38 回

〈参加延べ人数〉生徒 119 人 スタッフ 104 人 合計:223 人

【2013 年度の活動】

2013 年度の高校生教室は、スタッフとして他教室の活動に参加している高校生のほかに、他教室の活動に参加していない高校生も参加していました。教室の中では、高校生の学校の勉強や資格取得のための勉強をしたり、また大学受験を控えている高校生の相談を受けたりしてきました。このほか、教室内のイ

イベントとしてスポーツを行ったり、8月には伊豆の民宿別荘で職業体験をしたり、11月には広島の見学などの活動を行ってきました。

広島の見学に行くにあたって、教室の中では原爆が落とされた歴史的な経緯や、原爆の状況について事前調べ学習を行い、被爆者の経験が綴られている文章を読みました。また、原爆と戦争との関連から、参加者それぞれのルーツと繋げることで、親がなぜ日本に来ることになったか、自分がなぜ今ここにいるのかなどを話したりしてきました。事後では、参加者のそれぞれが事前学習や実際の見学についての感想文を書き、ほかの運営委員に対して作文発表を行ったり、お互い感想を話したりしました。

今年度の教室では学習だけでなく、自分たちのルーツについて考える活動も行った点は新しい試みだといえます。広島見学に行ったことで、原爆について知っただけでなく、歴史や戦争の中に自分たちを位置づけることによって、親のルーツや自分のルーツについて考えるきっかけとなりました。また、高校生が自分だけでなく、とりにいる者同士がそれぞれ、どのような経緯を経て今ここにいるのかを知るきっかけとなりました。

【次年度に向けての課題】

2013年度の高校生教室で行ったようなルーツについて考える活動は、普段家庭あるいは地域では見聞きすることはあっても、「知る場」「考える場」は学校でも地域でも保障されているわけではないため、自分の問題として終わってしまうことが多いです。こうしたルーツに関わる活動は、外国人の子どもにとって自分と他人・社会を結びつける重要で必要な活動です。広島見学以降、ルーツについて考える活動を継続的に行っていますが、次年度では自分たちの母国についてもっと知りたいという高校生の声を元に、自分たちの母国やルーツを探る活動を教室の中で予定を立てて行っていきたいと考えています。

伊豆の民宿別荘での職業体験は、事前に職業体験の計画・予定を立てたり、打ち合わせしたりなど、実際の活動を形づけられなかったことも反省・課題として挙げられます。今年度は、自分たちにとって必要なこと・知りたいことを探していきながら、企画として立ち上げる力をつけていきたいです。

■母国語教室

□中国語教室

〈開催日程〉10/20,11/8・17

回数:3回

〈参加延べ人数〉生徒6人 スタッフ5人

合計:11人

【2013年の活動】

2013年度の中国語教室は、参加者の中学生:Kと、中国語が話せない大学生スタッフ:T(日本生まれ)が参加しました。Tは親との会話を思い出しながら、文字や発音の練習をしたり、言葉の意味の確認をしたりしてきました。

Kは小学校低学年の時に来日してからずっと中国語教室に参加している生徒です。来日当初から学校での人間関係がうまくいっていないことに加え、中学校に上がってから親が中国に帰り、祖母と二人で暮らすようになり、家の状況がより不安定になっていきました。今は中学生教室への参加がメインとなり、母国語学習ではなく、不安定な状況を聞き取りながら整理していく活動にシフトしていきました。

中国語教室としては年間を通して、参加者の予定が合わず、不定期に教室を開催することになりました。

【次年度に向けての課題】

次年度はKに対して、母国語教室がどういう役割を果たせるのかが考えられなかったことや、教室を定期的に行うことができなかったことが課題として残りました。次年度では、教室を定期的に行い、参加者の中学生と一緒にできることを考えたうえで教室を立て直していきたいと考えています。

□ベトナム語教室

〈開催日程〉(2012 年度)1/19・3/2・23

(2013 年度)4/6・20・27・5/18・25・6/22・7/6・27・8/10・14・9/8・10/27・11/2・23・12/21

回数:18 回

〈参加延べ人数〉生徒 47 人 スタッフ:20 人

合計:67 人

【2013 年度の活動】

今現在では、7 人の生徒を対象に教室を開催しています。日本生まれでベトナム語の読み書きが全くできない生徒がおり、その子は日本語が中心となったベトナム語で会話をし、両親との会話もたどたどしいことがあります。そのような生徒に少しでも母国語に触れる機会を与えられるように教室を開催してきました。

10 歳の時に来日した 6 年生の女子 N と同学年の U が参加しています。N の参加の経緯は、同学年のベトナム人の女子 U が「N がどんどんベトナム語を喋らなくなっている」と聞き、2 人を教室に誘いました。

運営スタッフも生徒にベトナム語を教えることは初めてで、教える側/教えられる側も互いに学びながらの教室でした。教室では、ベトナム語の教材を使用し、アルファベットや発音を始め、単語や文章の学習をしました。N からは、「ベトナム語を勉強するのは、久ぶりで懐かしい、楽しい」との声があり、継続的に参加を呼びかけています。

また、教室に参加している高校生から学校の調べ学習のスピーチがあり、ベトナムについて学びたいということから高校生スタッフにベトナムの歴史についての学習もしました。継続して参加している高校生は、前回に勉強した単語をいくつか覚えていたりとしていて、勉強の結果が見られていました。

他にも、たまたま学習風景を見た小学 4 年生から教室に参加したいと声があり、その子どもから妹や知人の小学生の新規参加がありました。

【次年度に向けての課題】

日本生まれの子どもには、ベトナム語の会話を交えた読み書きを継続的に教えていくことを考えています。

一方で、学年の途中で来日した N に、教室として何が成しえられるのかが課題です。まずは、N とベトナムでの様子や来日にたばかりの話をし、N を知っていきたいと思います。

教室運営では、学習進度がまちまちな生徒を 1 人で教えていくことが難しい現状があります。学習進度が速い生徒と新規で来た生徒の学習時間を分けていくこと等を考えています。2014 年度は、学習内容以外にベトナム語で会話することやルーツに繋げる作業として選択国際のような授業を行いたいです。そのためにまず、ベトナム語で自己紹介をしたりしていきたいと思っています。

□カンボジア語教室

〈開催日〉(2012 年度)1/12・3/2・30 (2013 年度)7/6

回数:4 回

〈参加延べ人数〉生徒 4 人 スタッフ 4 人

合計:8 人

【2013 年度の活動】

昨年 4 月よりカンボジア語を再開しました。参加者は、S、1 名です。彼は読み書きを不得意としているため、まずは基礎的な文字の訓練をしています。S は、長い間体調不良のため、「他の人と接する機会を」と思い、参加した様子が見られます。教室は不定期の活動であり、昨年の 9 月より生徒の体調不良により活動ができていませんが、継続の意思が見られるため、ゆっくりと活動をしていきたいです。

【次年度に向けての課題】

引き続き、カンボジア語の「読み」「書き」を習得し、文字以外にも、写真や雑誌を使って学習していきたい

いです。

■震災支援

〈開催日程〉(2012 年度)3/13・14 (2013 年度)8/17・18

回数:4 回

〈参加延べ人数〉生徒 18 人 スタッフ 9 人

合計:27 人

【2013 年度の活動】

2013 年度は、2 回陸前高田に出向いた。いずれも、震災以後に関わりを持っていた B が児童養護施設で生活している様子を見に行くものでした。1 回めは、B 君の弟が安定していないとの事で、園長先生の配慮により本人と接触できなかったが、2 回めの訪問の際、B 君の児童養護施設での生活が落ち着いていると判断し、接触を延期しました。B 君が児童養護施設で生活するようになった背景には、母親とパートナーの関係が崩れ、子どもたちの安全性を確保するために施設での生活が選択されたものがありました。一方、S 兄弟の M ちゃんは、支援学校での生活を送りながら週末は寮ではなく、自宅に戻る生活をしています。また、離れて暮らしている母親との接触が頻繁になり、土日の過ごし方が「消費すること」に偏っている傾向にあります。その様子から彼女の家庭環境には「金銭感覚」が一般の人とズレているという予想が立てられました。弟の H 君は、今年高校受験生となり、姉の通う支援学校を希望しています。彼は、進学先が決まっていない頃よりも落ち着いていて、学校にも休まず通っているようです。

【次年度に向けての課題】

今後は B 君や H 君の進学を見守りつつ、彼らのニーズに少しでも力になっていきたいと思います。また、S 兄弟の M ちゃんや H 君の週末の過ごし方なども含め、ばいみー以外の団体、例えば、「まつ」につなげられるような取り組みをしたいです。

■運営委員会

〈開催日程〉(2012 年度)1/12、1/19、2/2、2/9、3/2

(2013 年度)4/13、4/27、5/25、6/8、6/22、7/13、7/27、8/10、8/24、9/7、9/27、10/19、11/9、
11/23、12/14

回数:20 回

〈参加延べ人数〉

合計:187 人

【2013 年の活動】

今年度の運営委員会では、普段の教室の活動やイベントの取り組みから子どもたちの変化や問題点を重点的に議論できるようにしました。その結果、普段の活動に参加しているスタッフと社会人で子どもたちをみていく上で何を大事にしていくのかを確認し、教室の方向性を見直すことができました。

外部とのつながりでは、NPO 法人神戸定住外国人センターや、大学から講演の依頼を受け、すたんどばいみーが抱えてきた外国人問題を発信することができました。また、そのつながりから、とよなか国際交流協会との情報交換を行うことができました。

【次年度に向けての課題】

高校生・大学生スタッフの役割が大きくなっていくと同時に、社会人も活動の中で外国人問題をどうやって広げ、深めていくのが今後の課題となります。次年度では、教室に来ている子どもたちの様子・問題から外国人であるがゆえに生じる課題について少しずつ分析してどう解決していくかを議論していける場を設けていきたいです。